

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-212293

(43)公開日 平成9年(1997)8月15日

(51)Int.Cl.⁶

G 0 6 F 3/033

識別記号

序内整理番号

F I

G 0 6 F 3/033

技術表示箇所

3 3 0 A

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全3頁)

(21)出願番号

特願平8-21182

(22)出願日

平成8年(1996)2月7日

(71)出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72)発明者 山岸 康文

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(72)発明者 竹沢 幸一

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(72)発明者 今泉 実

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

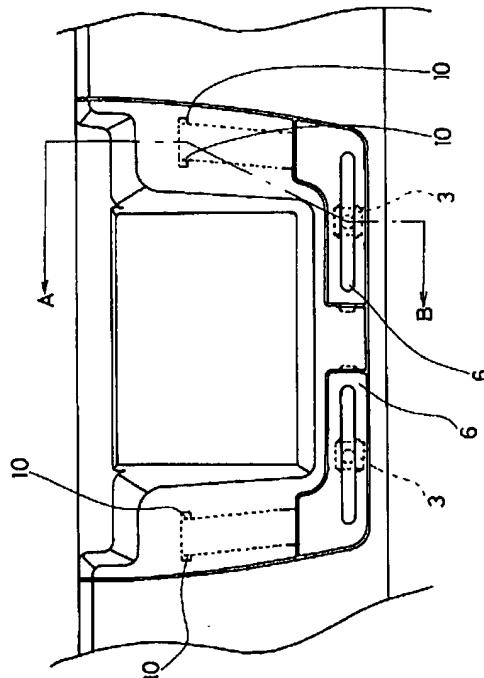
(74)代理人 弁理士 安富 耕二

(54)【発明の名称】 電子機器用マウスボタンの取付装置

(57)【要約】 (修正有)

【課題】電子機器におけるマウスボタンの取付けで、構成部品の減少と作業工数の減少を図る。

【解決手段】PCあるいはWP等の電子機器におけるマウスボタン6を、追加部品なしに電子機器本体キャビネットに設けた窓部を通して、その先端を挿入すると共に、端部の支軸部10を受け部に載置して回動自在に設けスイッチ3をオンオフする構成である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】電子機器に接続する電子機器用マウスボタン装置であって、電子機器本体キャビネットの上方に向かって一対の窓部を設け、マウスボタンの一端にスイッチ押圧部によって押圧されるマウスボタン用のスイッチを前記電子機器本体キャビネット内に設けると共に、前記電子機器本体キャビネット内の受け部によって前記マウスボタンの他端に設けた支軸部を中心回動自在に、前記電子機器本体キャビネットに取付け、前記マウスボタンの一端を押圧することによって前記スイッチを操作可能としたことを特徴とする電子機器用マウスボタンの取付装置。

【請求項2】前記マウスボタンをL字状に形成し、その一端を支持部によって押圧自在になすことを特徴とした請求項1に記載の電子機器用マウスボタンの取付装置。

【請求項3】前記マウスボタンをL字状に形成すると共に、該マウスボタンを一対設け、これに対応して一対のスイッチを前記電子機器本体キャビネット内に設け、前記マウスボタンの支持位置を離間させて、当該マウスボタンを互いに対称の位置に配したことを特徴とする電子機器用マウスボタンの取付装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電子機器、例えばノート型パーソナルコンピュータ（以下PCと称する）あるいは、ワードプロセッサ（以下WPと称する）において、キーボードに加えてデータ入力手段としてマウスボタンが多用され始めたことから、該マウスボタンの容易な取付けに供する電子機器用マウスボタンの取付装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来液晶パネルを用いたノート型のPCあるいはWPにおいて、図3及び図4に示すように、マウスボタン1を電子機器本体キャビネット2のキーボード面側に当該キーボードに近接して取付け、データを入力する方法が多く採用されている。

【0003】ところが、この構成で特に前記マウスボタン1の表面のどの部分を押圧しても該マウスボタン1の直下に設けたスイッチ3が動作するようになるためには、該マウスボタンと電子機器本体キャビネット2との間に別途板バネ4で結合し、更に固定用ボス5の溶着によって固定する。

【0004】前記マウスボタン1の隅部を押して操作するようになっており、部品点数が多く、更に作業工程が増える欠点があった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、前述の従来例における欠点即ち、部品点数の増加と共に伴う作業工程の増加を除去するものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、電子機器本体キャビネットの上方に向かって一対の窓部を設け、当該窓部の内方にマウス用のスイッチを設け、前記マウスボタンの端部を前記電子機器本体キャビネットに支持するよう取付けて該マウスボタンの押圧により、前記スイッチを操作可能にする構成である。

【0007】

【実施例】図面に従って以下本発明を説明すると、図1は、本発明の電子機器用マウスボタンの取付装置の要部上面図、図2は同装置の要部断面図を示す。

【0008】図1～図2において、6はマウスボタン、7は電子機器本体キャビネット、8はスイッチ取付部、9は窓部、10は支軸部、11は前記支軸部を回動自在にするための受け部、12は凹部、13はトップカバー部、14は前記マウスボタンの端部を示す。

【0009】次に本発明装置の取付け方を説明すると、先ず電子機器本体キャビネット7内の凹部12にスイッチ取付部8を収納する。該スイッチ取付部8には予めスイッチ3を取付けておく。

【0010】その後マウスボタン6を電子機器本体キャビネット7に設けた窓部9の上方からマウスボタン6の支軸部10を、前記電子機器本体キャビネット7内の受け部11に向かって挿入し、支軸部10を前記受け部11に載置する。

【0011】この後電子機器本体キャビネット7に対して、上方からキャビネットトップカバー部13によって施蓋すれば、当該マウスボタン6は電子機器本体キャビネット7内への取付けが完了する。

【0012】この状態でオペレーターは、前記マウスボタン6を電子機器本体キャビネット7の外方から押すことによって、マウスの操作が行われ、該マウスボタン6の押圧で支軸部10を中心に回動し、それに応じてマウスボタン6の下方に設けたスイッチ3が作動して所定の入力が行える。

【0013】この場合、前記マウスボタン6の押圧に対する復帰は、前記マウスボタン6の端部14の弾性力によって達成される。

【0014】

【発明の効果】本発明の電子機器用マウスボタンの取付装置によれば、従来のようにマウスボタンの他に追加部品は必要なく、またそれらの取付作業及び溶着の作業が除去できるのでコストダウンが図れ、マウスボタンを大きく設計できる利点が得られるので、本発明装置は電子機器に極めて有用である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の電子機器用マウスボタンの取付装置を示す要部上面図である。

【図2】本発明の電子機器用マウスボタンの取付装置を示すA-Bにおける要部断面図である。

50 【図3】従来の電子機器用マウスボタンの取付同装置を

3

4

示す要部上面図である。

【図4】従来の電子機器用マウスボタンの取付装置を示すC-Dにおける要部断面図である。

【符号の説明】

- 3 スイッチ
- 6 マウスボタン
- 7 電子機器本体キャビネット

8 スイッチ取付部

9 窓部

10 支軸部

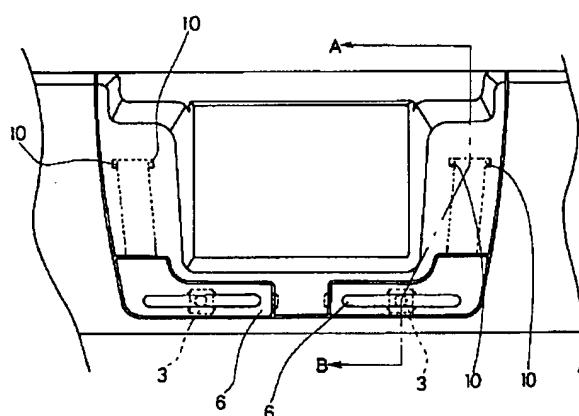
11 受け部

12 凹部

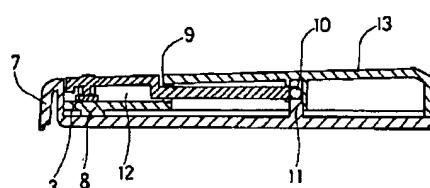
13 トップカバー部

14 端部

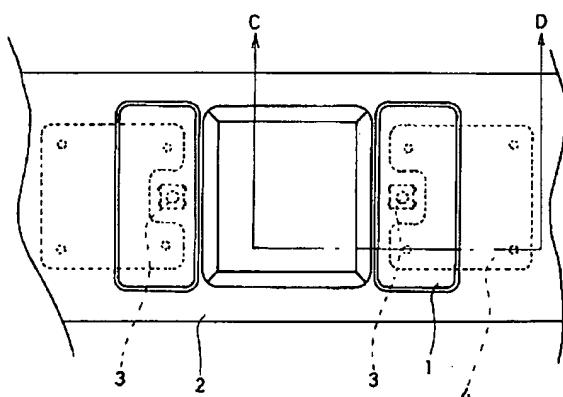
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

